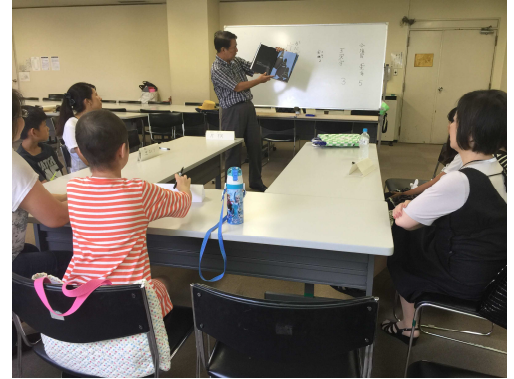


【事例発表】

団体名： 認定特定非営利活動法人 教育活動総合サポートセンター

＜団体概要＞

当センターは、川崎市内の学力不振や不登校の状態にある子どもたちに直接指導・援助の手を差し伸べ、側面から学校を支援することを目的に、平成16年4月に設立された。設立2年目からは、文部科学省委託研究「いじめ対策等生徒指導推進事業」を受け、「こどもサポート」を居場所に行っている子どもの直面している、いじめや不登校等の課題解決・改善に向けた実践研究に取り組んでいる。「子たちに力を」の法人設立の理念に基づき、平成28年度の活動方針として、次の3点をあげている。



- ①基礎基本を重視した学習支援の充実と多様な体験活動の実践
- ②家庭・学校・地域及び関係機関等との連携と相談活動を中心とした社会福祉活動の充実
- ③一人ひとりの児童生徒の自立と、心豊かに生きる力を身につけるための支援

これらの方針に基づいて、「教育・福祉に係わる相談事業」・「適応指導に関する事業」・「体験活動に関する事業」・「学習支援に関する事業」・「特別支援教育に関する事業」等、様々な事業に取り組んでいる。

「学習支援に関する事業」の一つとして、平成25年1月より「幸区地域課題対応事業委託」を受け、週1回、外国につながる児童生徒の日本語力や学力向上のため、日本語指導や教科指導を地域のボランティアと支援を行っている。

平成26年度より、文化庁「生活者としての外国人」のための日本語教育事業の委託を受け、教育委員会や行政機関との連携・協力し、「ともに学ぶ日本語学習支援事業」において、地域の外国人につながる児童生徒や保護者、地域に住む外国人市民等の日本語学習を地域のボランティアとともに実施している。



認定特定非営利活動法人 教育活動総合サポートセンター

URL : <http://www.kks-support.sakura.ne.jp/>

メール : support0731@luck.ocn.ne.jp

事業実施概要

事業名称	ともに学ぶ日本語学習支援事業			
地域の課題	川崎市の外国につながる子どもたちや外国人市民等（以下、外国人）は多国籍にわたる上、分散して居住していて、同国人のコミュニティも少なく、情報が伝わらないこともある。多文化環境での子育てや教育に関する知識も十分でない。そのため、地域のバイリンガルの外国人市民等も日本語の能力やコミュニケーション能力を向上でき、外国人支援ができるような学びの場をつくること。			
事業の目的	外国人が「自分の体験や気持ちを日本語で書いて表現する」力を獲得したり、生活するのに必要な情報を「やさしい日本語」にするプロセスを通じ、対話を通して日本人市民も学びあう。市民同士として信頼関係を築き、地域住民や行政・教育関係者等とも理解を深める。多文化共生社会の担い手として様々な外国人をサポートできるようなバイリンガル外国人サポーターの日本語のレベルアップを図る。			
事業内容	取組1		取組2	
	名称	自分のことを語り伝える場づくり事業～デジタル・ストーリーテリング（DST）作品による外国人市民の声を発信する	名称	「やさしい日本語」学習支援事業
	目的	外国人が、日本語サポーターとの話して書く対話活動を通し、自尊感情を高め、他者との関係性を深める。	目的	日本で生活するために必要な情報やその背景にある文化を日本語サポーターとともにやさしい日本語にする対話活動のプロセスを通して学ぶ。
	内容	A:話して書く活動『もっともっと伝えよう！自分の気持ち』 B:日本語サポーターの人材育成『多文化共生のために自分たちにできること』&『日本語サポーターのDST制作』 C:外国人のDST制作『もっともっと伝えよう！自分のこと』	内容	保健師や養護教諭、警察官などゲストティーチャーから機関の仕事やシステムなどについて学び、それらの機関から発行される文書を日本語サポーターと『やさしい日本語』に言い換える。タイトルは参加者の母語訳を入れ、やさしい日本語の文書を編集する。発行部署に提供して活用してもらう。
	対象	対象：外国につながる子どもたちや保護者、外国人市民等、地域の日本人市民、行政・教育関係者など	対象	外国につながる子どもたちや保護者、外国人市民等、地域の日本人市民、行政・教育関係者など
	時間	1回3時間×25回（全75時間）	時間	1回2.5時間×8回・1回3時間×1回（全23時間）
	人数	115人	人数	64人
連携体制	NPO 日本語教科学習支援ネット、川崎市総合教育センター、川崎市、幸区役所、幸警察署、市立小学校、幸区多文化共生推進事業実行委員会、外国につながる子どもの東小倉学習サポート教室、幸市民館日本語学級、にほんごワールド、幸子育てくらぶトントンなどの機関・団体、および専門家			
成果と課題	<p>成果（１）外国人は自分のことを振り返って話して整理して書き、自分の声で読むことで客観的にモニターでき学習モチベーションがあがった。</p> <p>（２）対話活動を通して自尊感情が高まり、将来の夢を語ったり、社会参加する者も出てきた。</p> <p>日本語サポーターや外国人参加者同士の関係が深まり日本語サポーターとして関わるようになった外国人もいる。</p> <p>DST 作品に社会性のある作品が増えてきた。</p> <p>課題（１）学習モチベーションが上がった外国人と居場所（たまり場・しゃべり場など）どう作るか。</p> <p>（２）対話型活動のプロセスでの母語の扱いや引き出し方（聞き方）をどうするか。</p> <p>（３）日本語サポーターの質問力。</p>			
参加者の皆様へ一言	この活動に関わった全ての方が、サポートのあり方や自分の人生をも考える機会になりました。DST 作品は刺激を受けるインパクトがあります。ぜひ、作品をご覧になってください。今年度の作品の上映会は11月です。			

